

未来を拓く科学大好き教育 通信

郷土博物館 特別研究員

指導課 特別指導員

岩波 英一

「理科室のおじさん」を尋ねて

その6 日立市立櫛形小学校

日立理科クラブ・山縣俊夫さん



の思いは熱く、無線飛行機を作っているそうです。

今、櫛形小学校では、サケの孵化を学校で観察できないかと学校全体で取り組んでいます。そのため、日立理科クラブの支援も受け、理科室の場を活用



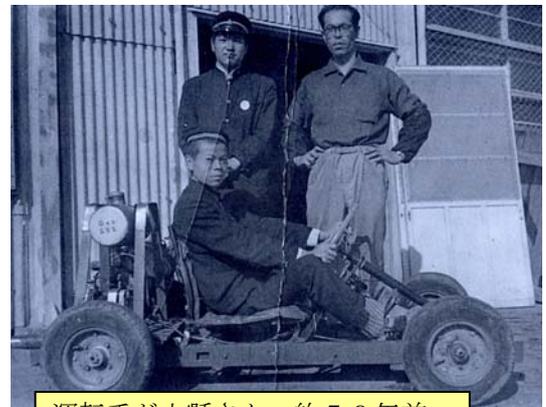
鮭の孵化

して稚魚を飼育し観察できる水槽の装置を開発しているところです。山縣さんも、鮭受精卵の孵化水槽冷却方式の方法を検討して提言しています。「鮭の孵化に適切な水温10℃前後に保つことの難しさが課題ですね。」と、これからの取り組みに意欲を示していました。

た。孵化の方法を学ぶために、福島県・木戸川の養魚場に見学に行ったということですから、櫛形小の本気さが分かります。11月中旬には、実際に鮭の受精卵を取り出したり、孵化装置を完成させて稚魚を孵化させたりと、本格的な取り組みが待っています。とても楽しみです。

山縣さんは現役時代、日製日立工場の生産技術部門に所属し、コンピュータを活用して自動的に加工するソフトウェアの開発を行っていたそうです。「今の子どもたちに科学技術の歴史を知らせ、夢を持たせたいですね。そして、難しいことを易しく、理論よりも実体験で感じてほしいですね。」と、理科室のおじさんとしての心構えを話していました。飛行機好きの子どもたちが、きっと櫛形小から現れることでしょう。

櫛形小学校の「理科室のおじさん」山縣俊夫さんを尋ねました。山縣さんは、「中学時代は、飛行機を作る技術者になることが夢で、3年生の夏にはクラブ活動でゴーカートを作り、放課後校庭を走らせました。」と、その当時の思い出を話していました。写真は、山縣さんたちが作ったゴーカートと恩師の先生との記念写真です。今でも、飛行機へ



運転手が山縣さん・約50年前



十王川での鮭の捕獲・櫛形小の児童

昨年度の活動

2009.10.20